大嘗會式

津田文庫
文庫1
1871

早稲田大学圖書館藏書

大嘗會

大祀次第

卯日平明大嘗宮四門ニ賢木ヲ樹ツ

其儀正面鏡劍玉ヲ懸ケ五色ノ帛ヲ著ク

次神部等神門中門腋門南門ニ候ス

次内舍人廻立殿及行在ノ諸門ヲ警衛ス

次式部寮群官ノ版ヲ大嘗宮神門外ノ庭上南ニ

距ル五二尺許ニ設ク

第一字悠紀主基両國ノ神物ヲ齋場所神祇省中ヨ

リ發シテ大嘗宮ニ到リ各膳屋ニ收ム

つだ文庫

010190616539

悠紀方列次
神祇省使部四人左右前驅
次大掌典一人
次少神部二人左右分行
次繒服
次麁服
次悠紀方甲府縣屬一人
次神祇權大錄一人
次中少掌典二人左右分行
次御稻櫃一合 蘿蔔ヲ著ク

1871

次同臺二脚
次御膳案
次御酒案
次黑酒白酒 黑白各一缶 櫃上蘿蔔ヲ著ク
次同臺二脚
次神饌櫃二合
次同臺四脚
次神饌料埋具櫃一合
以上行列ノ間神部著左右分行ス
次神祇少丞

次甲府縣知事
次同大參事
主基方同上花房縣官員等列次悠紀方ニ
准ス
右悠紀ハ大嘗宮南門ヨリ入リ西腋門ヲ
經テ悠紀ノ膳屋ニ到ル主基ハ南門ヨリ
東腋門ヲ經テ主基ノ膳屋ニ到ル
次神祇官員幄舍ニ着ク
次式部官員幄舍ニ着ク
第四字神祇大少輔掌典等ヲ率テ兩殿ノ神座
ヲ奉仕ス（神部等神座ノ具ヲ傳送ス）
次大少輔衾單ヲ兩殿神座ノ上ニ置キ又繒服
案麁服案ヲ各兩殿神座ノ上ニ置ク（衾單繒服案麁服案兩殿各次第アリ）
此間宮内省御服二襲ヲ廻立殿ニ置キ天
羽衣ヲ備ヘ御敷簀御帖等ヲ同殿中ニ設
ケ御湯ノ榻ヲ同東幔内ニ設ク
次大掌典神部ヲ率テ忌火ノ燈燎ヲ兩殿ニ設
ク（各二燈燎）同時ニ神部等庭燎ヲ神門及中門
外ニ設ク

悠紀次第

第一鼓（五字以下鼓聲ヲ以テ行事ヲ報告シ毎鼓次第ノ數ヲ擊ツ）

勅任（諸次官大内史以下府知事以上）奏任判任等中門外ノ幄舍ニ著ク

次悠紀主基両方知事参事等同上幄舍（絶席）ニ著ク

第二鼓（六字）

天皇廻立殿ニ幸ス

先是

乘輿行在所ニ行幸ス時刻帛ノ御衣ヲ御シ行在ヨリ出御廻立殿西方ノ御床子ニ著御ス侍從長二人劍璽ヲ執テ白木床子ノ上ニ置ク行幸ノ後特ニ高聲ヲ禁ス

次親王太政大臣参議諸長官（長官欠員ハ輔之ニ代ル）神祇輔式部頭等廻立殿庭上ノ座ニ著ク（北上西面）

次宮内省御湯ヲ供ス

次御祭服ヲ御ス

次御手水ヲ供ス

次式部頭群官ノ名簿ヲ奏ス訖テ時刻ヲ奏ス

次悠紀殿渡御

其儀神祇ノ官人豫メ二幅ノ布單ヲ御路ニ鋪ク御歩ノ時侍從二人左右ニ膝行シ葉薦ヲ以テ布單ノ上ニ鋪ク宮内ノ官人御後ニ候シ御歩ニ隨テ之ヲ捲ク

御前神祇大少輔

次太政大臣

次侍從二人左右各燭ヲ秉ル

宸儀御歩

侍從長劍璽ヲ奉ス侍從御蓋ヲ上リ御綱ヲ張ル御路大嘗宮ノ北門ヨリ悠紀殿ノ東ヲ

經南面ヨリ入御神座ノ東北ヲ經テ御座ニ著御ス

御後親王參議諸長官式部頭等扈從從一位中山忠能列外ニ隨行ス

著御ノ後侍從長劍璽ヲ奉シテ悠紀殿南面ノ簀子ニ候ス（忠能階上便宜所ニ候ス）神祇ノ官人燭ヲ執テ階下ニ候ス

次親王大臣以下扈從ノ羣官悠紀殿庭上ノ幄舍ニ著ク（東上北面）

渡御ノ間悠紀ノ膳屋稲舂歌ヲ發シ神饌

ヲ料理ス

第三鼓

神祇輔丞ニ命シテ神門及中門腋門ヲ開カシム

次神祇丞神饌ヲ檢知ス

次勅任奏任判任官等西腋門ヨリ入テ幄舍ニ

著ク

次悠紀方知事叅事西腋門ヨリ入テ幄舍絶席ニ

著ク

次式部助伶人ヲ率ヰ西腋門ヨリ入テ版ノ西

ニ著ク

伶人國栖古風五成ヲ奏ス

次悠紀方知事幄ヲ出テ版ノ東ニ著ク

伶人悠紀國風四成ヲ奏ス

次親王大臣勅任官叅議以下知事以上府庭中ノ版ニ著テ立列ス奏任判任幄舍ヲ出テ前庭ニ列ス

百官悉立定テ八開手ヲ拍ツ訖テ各幄舍ニ復ス親王大臣叅議諸長官ハ悠紀殿庭上ノ幄自余ノ勅任及奏判ハ神門外ノ幄各本座ニ著ク

次親王太政大臣悠紀殿ニ叅シ殿上ノ庇ニ侍

ス神祇輔式部頭同ク南面ノ簀子ニ侍ス
參議諸長官幄舍ニ在テ奉侍ス

第四鼓

神祇輔丞ニ命シテ神饌行列ヲ發セシム
少丞一人前行警蹕ヲ称ス
少掌典二人左右燭ヲ秉ル
中掌典一人蝦鰭槽ヲ執ル
中掌典一人多志良加ヲ執ル
陪膳采女一人楊枝筥ヲ執ル
後取采女一人御巾筥ヲ執ル

采女一人神饌薦ヲ執ル
同一人御食薦ヲ執ル
同一人御箸筥ヲ執ル
同一人平手筥ヲ執ル
同一人御飯筥ヲ執ル
同一人生魚筥ヲ執ル
同一人干魚筥ヲ執ル
同一人菓子筥ヲ執ル
大掌典一人鮑汁漬ヲ執ル
大掌典一人和布汁漬ヲ執ル

中掌典二人空盞ヲ執ル
大神部二人御羹八足机ヲ舁ク
中神部二人御酒八足机ヲ舁ク
少神部二人御粥八足机ヲ舁ク
右神饌具陪膳後取ノ采女二人簀子ニ候シ次第ニ取テ之ヲ奉ス
先御手水
次御供進
次祝詞
太政大臣奏之

次御直會
親王侍之
次御手水
次神饌ヲ撤ス
行列初儀ノ如シ
第五鼓
廻立殿還御
扈從初儀ノ如シ
次皇后拜儀
典侍以下女官隨從ス 鄭舍ニ坐下

次勅任官以下中門外ノ幄舍ニ退下
主基次第
第一鼓曉二字
親王大臣以下廻立殿前庭着座初儀ノ如シ
次宮内省御湯ヲ供ス
次御祭服ヲ御ス
次御手水ヲ供ス
次式部頭時刻ヲ奏ス
次主基殿渡御
布單及葉薦ヲ御路ニ鋪ク儀等初ノ如シ

御前神祇大少輔
次太政大臣
次侍從二人左右ヲ秉ル各燭
宸儀御步
劍璽御蓋ノ儀等初ノ如シ御路大嘗宮ノ北
門ヨリ主基殿ノ西ヲ經南面ヨリ入御神座
ノ東北ヲ經テ御座ニ着御ス
御後扈從初儀ノ如シ
著御ノ後劍璽ヲ奉シ燭ヲ秉ル儀等初ノ如
シ主基殿渡御

次親王大臣以下庖從ノ群官主基殿庭上ノ幄舍ニ著ク西上北面

渡御ノ間主基ノ膳屋稲舂歌ヲ發シ神饌ヲ料理ス

第二鼓

神祇丞神饌ヲ檢知ス

次勅任奏任判任官等東腋門ヨリ入テ幄舍ニ著ク

次主基方大少參事東腋門ヨリ入テ幄舍ニ著ク

次式部助伶人ヲ率ヰ東腋門ヨリ入テ版ノ東ニ著ク

伶人國栖古風五成ヲ奏ス

次主基方大參事幄ヲ出テ版ノ西ニ著ク

伶人主基國風四成ヲ奏ス

次親王大臣以下百官版ニ就テ立列八開手ヲ拍ツ事初儀ノ如シ復座次第初ノ如シ

次親王太政大臣主基殿ニ參シ殿上ノ庇ニ侍ス神祇輔式部頭同ク南面ノ簀子ニ侍ス

參議諸長官幄舍ニ在テ奉侍ス

第三鼓
神祇輔丞ニ命シテ神饌行列ヲ發セシム
少丞一人前行警蹕以下行列初儀ノ如シ
采女二人簀子ニ候シ次第之ヲ奉スル事初儀ノ如シ
先御手水
次御供進
次祝詞
次御直會
次御手水

次神饌ヲ撤ス
行列初儀ノ如シ
第四鼓
廻立殿還御
扈從初儀ノ如シ
次皇后拜儀
女官陪從ノ儀等初ノ如シ
祭儀畢ル
百官退下
神祇輔丞ニ命シテ神門及中門腋門ヲ鎖サシム

○追加

悠紀次第第四鼓ノ条主基次第第三鼓ノ条各神饌行列ノ次大掌典以下次第庭積ノ机代物ヲ列ス

翌日平明神祇省大嘗宮ヲ鎮祭シ神座ヲ撤却ス其儀悠紀殿ノ庇ニ高机ヲ置テ祭之次第殿祭ニ同シ

主基殿同上

○國風歌

悠紀國名所

白嶺 巨摩郡

天の川ふかくあらはれてかひのしらねのこひあらそ

青柳里 同郡

大はらの風ふきてのゝ氏ゝよりさそふ柳の糸

主基國名所

長狭川 長狭郡

山ゐなゆくゝのりみどりもゆ狩のまふのむら年

蓬島 同郡

名くはしき蓬ゝまさて里ゝの代のなごゝ豫の神やつくる

○神饌色目

米御飯　一口
粟御飯　一口
甘塩鯛　一口
鮭鰒　一口
烏賊　一口
鮭　一口
蒸蛇　一口
干鯛　一口
堅魚　一口

雑魚腊　一口
干棗　一口
楊栗　一口
生栗　一口
干挿　一口
和布汁漬　一杯
蛇汁漬　一杯
和布羹　一杯
蛇羹　一杯
白酒　二瓶

黒酒　二瓶
米御粥　二杯
粟御粥　二杯
○御直會
米御飯　一口
粟御飯　一口
白酒　四瓶
黒酒　四瓶
○庭積机代
鯛　一臺
鮭　一臺
若海布　一臺
海松　一臺
右一脚
蛇　一臺
烏賊　一臺
棗　栗　一臺
柳　一臺
右一脚
雁　一臺

雉子　一臺
蘿蔔　一臺
胡蘿蔔　午房　一臺

右一脚

○祝詞

天皇乃新代乃茂御代乃大御典止今年十一月乃中卯日乃生日乃淀日乃大嘗祭仕奉給布為ノ斎清麻呂造奉枕留是乃悠紀乃大殿乃神水乃大前尓太政大臣従一位三條實美恐美恐美白左久高天原尓神留座須

皇親神漏岐神漏美乃命以豆天日嗣乃高御座乎天地乃共動久事無久變留事無久堅石尓常石尓定給比大御詔乃随尓天皇乃知食須御代乃初乃天津御饌乃遠御饌乃大嘗聞食須故尓先皇神等乃大前尓御服波和妙荒妙御酒波白酒黒酒乎始豆種々乃多米津物乎百取乃机代正置足波志太政大臣従一位三條實美乎始豆官々乃長官次官等諸乎率給比阿登毋比給比神事仕奉給波久甘良尓聞食豆

天皇乃大御代乎萬千秋乃長五百秋尓立榮志米給比天下内外乃國乃國止云國島止云島落留事無久洩留事無久見行志聞食須天皇乃朝廷乎始玉仕奉礼留親王百官人等乎弥進米給比倍白須事乎聞食止恐助氣助給比弥進米給比倍白須事乎聞食止恐美恐美毛白須

○奉待群官交名

太政大臣從一位三條實美

參議　正三位西郷隆盛

參議　從四位大隈重信

參議　從四位板垣正形

議長　從四位後藤元曄

外務卿　正四位副島種臣

文部卿　從四位大木喬任

宮内卿　正二位德大寺實則

神祇大輔　從四位福羽美静

大蔵大輔　從五位井上馨

兵部大輔　從五位山縣有朋

司法大輔　從五位宍戸璣

侍從長　從五位河瀬忠孝

式部頭從三位坊城俊政
神祇少輔從五位門脇重綾
員外
從一位　中山忠能
○從紀方官員
甲府縣知事從五位土肥實匡
○主基方官員
花房縣大參事清水豐宜

豐明節會次第十八日
辰日第十字式部寮正殿上下ノ裝束ヲ奉仕ス
第一字親王大臣諸省奏任以上叅列ス
次
天皇高御座ニ御ス群臣磬折
次神祇大輔賢木ヲ捧ケ天神壽詞ヲ奏ス
此間群臣起ツ
次壽詞畢テ大臣以下群臣拍手ニ
次太政大臣宣命ヲ宣ル

此間群臣磬折

次式部頭兩國獻物ノ色目ヲ執テ進ム兩國知
　參事獻物ヲ執テ羅列ス

次式部頭獻物ヲ奏ス

次白酒黑酒ヲ供ス各四坏

次臣下ニ賜フ白黑各一坏

次御膳ヲ供ス

次臣下ニ賜フ

居訖テ太政大臣天氣ヲ候フ

次御箸下ル

臣下應之

次國栖奏伶人奏之

次次第ノ物ヲ供ス

次臣下ニ賜フ

次倭紀主基兩國ノ風俗ヲ奏ス

次久米儛

次舞樂萬歲太平各一曲

以上次第ノ物ヲ供スル・ノ間奏之

入御

群臣退出

本日各省判任省中ニ於テ饗膳ヲ賜フ

神宮神官司廳ニ於テ賜之

地方官奏任判任本縣出張各所ニ於テ賜之

官幣國幣社新補判任神官管轄縣ニ於テ賜之

本日第十二字兵部省海陸軍各所ニ於テ祝炮

海軍二十一發
陸軍百一發ヲ發ス

同次第十九日

本日第一字麝香間詰非職華族等叅列

次

天皇髙御座ニ御ス群臣磬折

次太政大臣宣命ヲ宣ル

此間群臣磬折

次白酒黒酒ヲ供ス各四坏

次臣下ニ賜フ白黒各一坏

次御膳ヲ供ス

次臣下ニ賜フ

居訖テ從一位中山忠能矢氣ヲ候ス

次御箸下ル

臣下應之

次國栖奏 伶人奏之
次次第ノ物ヲ供ス
次臣下ニ賜フ
次悠紀主基両國ノ風俗ヲ奏ス
次久米儛
次舞樂萬歲太平 各一曲
以上次第ノ物ヲ供スルノ間奏之
入御
群臣退出
各國公使饗饌次第十八日

本日第六字三職式部外務卿輔神祇輔丞宮内
丞延遠館ヘ參向
次各國公使參集
次公使饗饌ニ就ク
白酒黒酒ノ神酒ヲ賜フ
次奏樂 伶人奏之
次公使祝辭ヲ上ル
大臣應之
饗饌畢ル
各退出

本日大坂神奈川兵庫新潟長崎箱館各港在留ノ岡士以下饗饌ヲ賜フ

同日各省雇入ノ教師其省中ニ於テ饗饌ヲ賜フ

○玉食供膳

御飯

鮭 作リ身

鮑羹 御汁 鯛

鯛 小串

鴨付焼 御汁 亀足付 巻鯉

筍 切重 葉付

甘煮栗 大根 浅漬

酢漬 若海布 赤貝 鯛

右各銀盤ニ盛テ供之

臣下饗膳

一折敷 煮蛇 焼鳥 飯 浸物 大根漬添 汁 鯛

二 小串 鯛 作り身 鮭 汁 鯉 酢漬 赤貝 和布 筍 煮染 栗 煮染

右勅任官

一折敷 煮蛇 浸物 大根漬添 飯 汁 鯛

二 小串 作り身 焼鳥 汁 鯉

右奏任官非職華族

○天神壽詞

現御神大八島國所知食須

大倭根子天皇我御前仁天神乃壽詞遠稱辭定

奉良止久申須高天原仁神留坐須

皇親神漏岐神漏美乃命遠持天八百萬乃神等

遠集倍賜天

皇孫尊波高天原仁事始天豐葦原乃瑞穗乃國

遠安國止平介々所知食天天都日嗣乃天都高御
座仁御笠天天都御膳遠長御膳乃遠御膳止千
秋乃五百秋仁瑞穂遠平介々安々由庭仁所知食
止事依志奉氐天降坐之後仁中臣乃遠都祖天
兒屋根命
皇御孫尊乃御前仁奉仕氐天忍雲根神遠天乃
二上仁奉上氐神漏岐神漏美命乃前仁受給波
申仁
皇御孫尊乃御膳都水波宇都志國乃水尓天都
水遠加氐奉牟申世止事教給志仁依氐天忍雲根神

天乃浮雲仁乘氐天乃二上仁上坐氐神漏岐神
漏美命乃前仁申波天乃王櫛遠事依奉氐此王
櫛遠刺立氐自夕日至朝日照万天都詔戸乃太詔
刀言遠以氐告祝如此告波麻矢波弱蒜仁由都
五百篁生出牟自其下天乃八井出牟此遠持天
天都水止所聞食止事依奉支如此依奉志任任
仁所聞食由庭乃瑞穂遠卜部等太兆乃卜事遠
持氐奉仕氐悠紀乃國主基乃國遠齋定氐古利
物部乃人等酒造児酒波粉走灰焼薪採相作稲
實公等大嘗會乃齋場仁持齋波利参来氐仕奉利
志

事乃如久今年十一月中都卯日仁由志理伊都
志理持恐美恐美清麻波利仁奉仕利月内仁日
時遠撰定氏悠紀尓波甲斐國巨摩郡主基尓波安房
國長狹郡乃仕奉礼留黒木白木乃大御酒遠
大倭根子天皇我天都御膳乃長御膳乃遠御膳
止汁仁毛實仁毛赤丹乃穂仁所聞食氏豊明仁明御
坐氏天都神乃壽詞遠称辞定奉留
皇神等毋千秋五百秋乃相嘗仁相宇豆乃比奉
利堅磐常磐仁齋奉利伊賀志御世仁榮志米奉利
自明治四年止云年始氏與天地月日共照志明

良御坐事仁本末不傾茂搶乃中執持氏奉仕留
中臣乃故事以豆神祇大輔從四位福羽美静壽
詞遠称辞定奉久止申
又申久
天皇朝庭仁奉仕留親王百官人等天下四方國
乃百姓諸諸集侍氏見食倍尊食倍歡食倍聞食
倍
天皇朝庭仁茂世仁八桑枝乃立榮奉仕留倍禱
乎所聞食止恐美恐美毋申給波久止申

○宣命

天皇乃大命尓坐世令年十一月乃今日乃生日乃足日尓大嘗乃直會乃豐明聞食須賀故尓親王百官人等悠紀主基乃二國乃仕奉礼留黒酒白酒大御酒乎赤丹乃穂尓海川山野乃種々乃物等乎賜波利恵良岐豆罷礼止宣留天皇乃大命乎諸聞食止宣留

○兩國獻物

悠紀方

栗　一石五斗

柳　千顆

絹　十疋

主基方

干鰒　百斤

○各國公使饗饌

一折敷　煮蛇　燒鳥

飯　浸物　大根漬添

汁　鯛

二　小串鯛　作り身鮭　汁鯉

酢漬　赤貝　和布

筍　煮染

栗　煮染

○公使交名

伊太利特派全權公使 コントアレサントロフエ

蘭弁理公使 エフペーフアンドルフーヘン

英代理公使 エッオアタムス・

西班牙代理公使 ヘブレヲロドリゲゼムノス

佛代理公使 ッチエン

米代理公使勤方 シオセパルト

英書記官 エルチストサトウ

クリスチヤンウイリエムローレンス

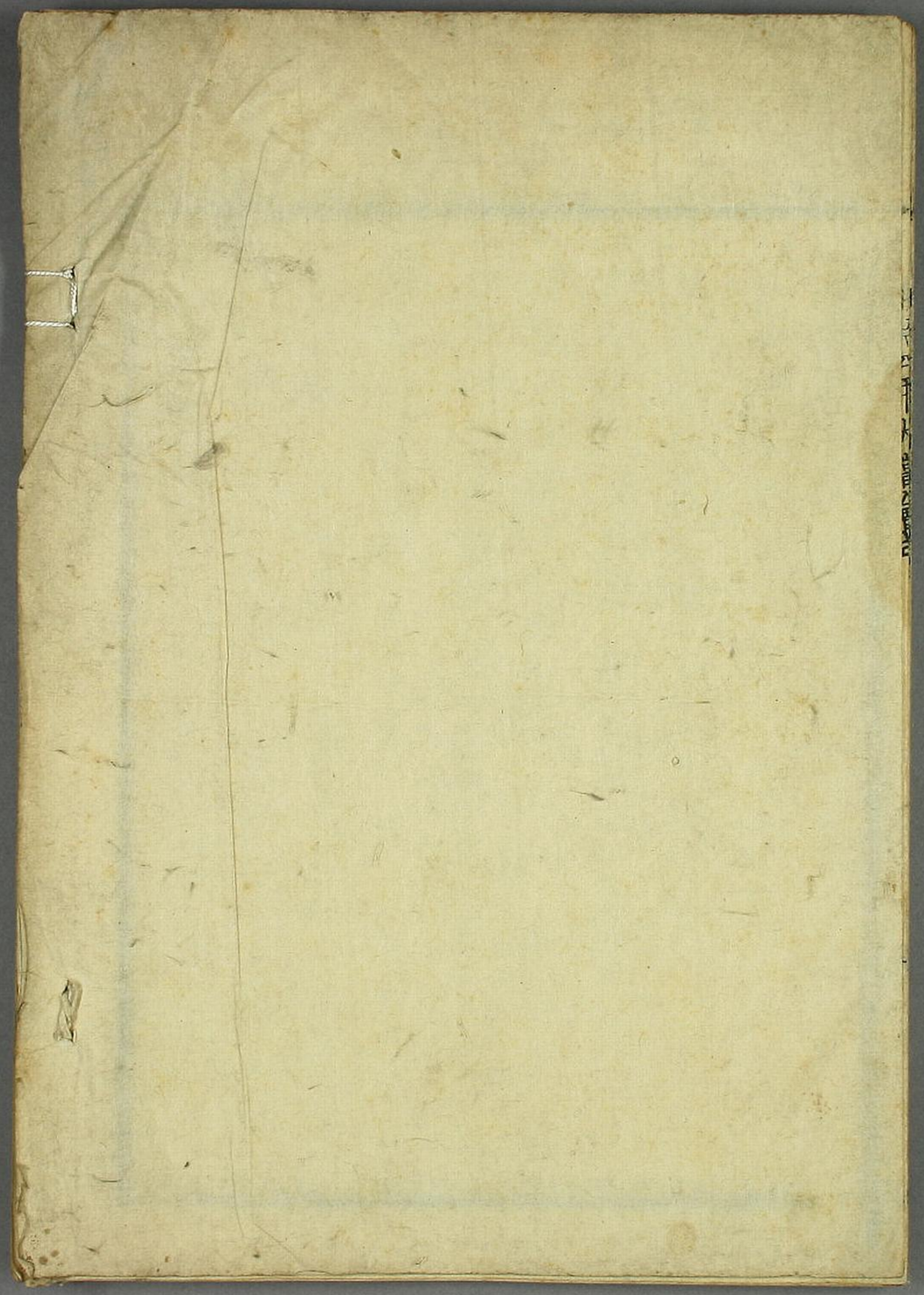
獨乙書記官 ケンブルマン

西班牙書記官 イシリヨテゼーダ

米通辯官 ライス

明治四年大管會計

未定稿 第七十六



明治十五年十二月地方官諮問會ノ際アリ東京ニ於
集ル所知事縣令ヘ岩倉右大臣ヨリノ演舌筆記

大嘗新嘗の祈祭典と

朝廷の重き事なりと世人以て知る處也然れども其詳なる
事天神餌の最も重き所以等と記せる書世にあまゝ有るとも
未だ去の多一先其大略を挙む神祇令に載る処大嘗
祭毎世一度なるも國司行事以外毎年なるも所司行事
すなわち古の大嘗新嘗の祈別なり後世に至り
踐祚の大祀を大嘗と云ひ年々行せらるゝを新嘗と云ひ
わかつり級大嘗なる悠紀（ユキ）主基（スキ）（書紀に亦忌（ユキ）の某国某郡とあり）の國郡を

下定して其國郡より神供の新穀を貢ぎむるを例とし新嘗祭を中古以来貢納の國郡をト定せずして之れを行ひ明治以前は御料を祀へたる山城國宇治郡より之を貢せしめ今年以来は大蔵省より納め十一年より京府より昨年より種物御苗の所収を用ひ玉へり御料は

大祭は上古
天祖の天下を　皇孫に傳へ給ふ方り特に授くるを齋庭の穂をもて給ひしより始まり以後代々に至るまで二千数百年来歴朝恒例に給ふ所にして　殘祚の大祭は其儀を厳重に給ひ年々の新嘗よりも新穀を炊き黒酒白酒といふ神酒を醸し

天皇は齋戒沐浴所つゆうを以て供ぜられ給ふ且は民命天神地祇を祭らせ給ふ是は其本を忘れ給ふ且は民命を重むじ給ふにより　神恩の報ひ以て年々の豊饒を祈らせ給ふ故に古天下萬民も當日戸を閉ぢ潔齋して神祇を拝せしむ　今は於ても萬民生活の所の食に當初　天祖の賜物なる事を忘れずして　殖農事を勵ましの瑞穂の国平安永遠に傳ふべきための重祀なれも政務を時々に應じて移換ることも既大典も萬世に渉りて変易もなしがたきものなり

前未文は畏敬するを以て此の大祭は実は國家の大事
にして次いで皇室の私事に非ず是れは國民たる者亦
必意を体認して
聖意に副ひ奉さは勿論の事なり敬は維新前皇室式
微の時に於ても此両大祭は當りては西京の民皆不家
にて夜を守り家令に
其儀を稱賞し居れり喧噪を慎起し國家の大祭
親祭の嚴儀を妨げ奉らむ事を恐れ人々戸を立て相
警戒す之を自身に思ひ奉るとふ其慎敬恭の情状信に
想像すべし信所云政府古以来皇運益々隆旺する
之

事亦古の如く潔齋閉戸して戸々謹慎の情を表す
べきに他に異事なきのみならず十数年前迄正しく古例
を遵守したる西京人民も早く已に之を忘れたるが如く
隨て國民本に報ひ遠を追ふの德義を失ふに至るも実
に可嘆の至りなりとす因て此事に付ても政府方に古例
調査の挙ありと雖も各地方官に於て宜しく先つ庶
民をして大祭嚴儀の旨意を知らしめ餘る報追敬
愛の誠を表せしむるを要す
我國農を以て本とし穀を米を以て貴とす是瑞穂
の美称因て起る所にして近来の外人の漸く本邦米を

強義する所以なりとす故に各地方農業を以て素
村なる者亦甚だ少なからず然るに東北地方に至り
て地廣く民少く田野開けず荒蕪かぶさる所り
去れも今日に於て國民として益々本を務め米を貴ぶ
の風を起さしむることを実に民政上の要務なりとす夫
れ大嘗新嘗両祭の実に國家の大事にして且つ農
民なる者に特別に親祭の厳儀を感佩し奉るべき
事前文に明なり而して其神饌の尤貴重なる所以
も亦本文に詳なり因て思ふに大嘗会及毎歳新嘗
祭に當り各地方の豪農神饌新米貢納の情願

を許すの道を啓くべし但其量は固より多寡を要
せず其人に則地方官を以て各郡中に就て
毎歳[illegible]ごとに[illegible]人宜しく以
て洗米黒白酒其他神饌に供し大祭に執行し
て未年の豊饒を祈り祭祀終る後神の味を以て前
の米を献ずる者に饗賜し[illegible]如斯なる時は一方に
則國民本業を奨勵し農業を勉励するの風を起
し次に他日外國輸出米豆國家に大経済上に好
影響を與ふるに足らん一方則民情を融釋
し次に忠孝義勇の情を啓導するに足らん俱

其意を汲て時に臨み情を察するを由て郷村農
家を勉勧せしむるを要し然るに若し故事を為て
て民時を奪ひ民財を費すに至りては則大なる不
可なり之に加へ内地相和ても内地の間の争端此件を以て取
来富豪を各地に生じ人民献物の規を企定せんか
抑沙汰可申と雖も一言を陳述するものなり
一言を陳述するものなり

今年一同集合の便宜の

郡長ニ示諭ノ草案

恭ク惟ミレハ新嘗ノ御祭典ハ其年登熟ノ新穀ヲ以テ洗蒸米及黒酒白酒ト云フ神酒ヲ醸シ畏クモ
天皇陛下躬カラ之ヲ供シ祭ラセ給フモノニシテ國家ノ嚴儀タルハ世人ノ皆知ル所ナリ抑モ此御祭典ハ
天祖ノ天下ヲ　皇孫ニ傳ヘ給フニ方リ特ニ授クルニ齋庭ノ穂ヲ以テ給ヒシヨリ稚興シ數千年来歴朝継續シ万代不易ノ大典ナリ是レ則チ其本ヲ忘レ給ハス且民命ヲ重シ給ヒ
天祖ニ報ヒ以テ万民生活スル所ノ食ハ當初
天祖ノ賜モノナルコトヲ忘レシメス弥農事ヲ励マシメ給フ所ノ重祀ナレハ往古ハ万民寒食シテ潔齋シテ

警戒セリト云フ其謹慎敬慕ノ情状信ニ想像スヘキナリ苟
モ臣民タル者此意ヲ體認シ
聖意ニ副ヒ奉ルハキハ勿論ナリトスト雖モ之レニ供セラルヘキ神
饌ハ其國郡ヲト定シ新穀ヲ貢セシムルヲ例トセラレシカ近
年ハ植物御苑収ムル所ノモノヲ以テセサセ給ヘリト今之ヲ
各府縣有志農民ヨリ獻納ヲ許サレ神饌ノ資ニ供セラル
ニ至ラハ有志者ノ感喜之レニ堪ヘンヤ依テ本官等府縣
知事一同ヨリ其旨ヲ宮内大臣ニ懇請シ聽許ヲ得タリ
依テ本年ヨリ毎年新嘗祭ニ當リ有志農民ヨリ新穀ノ
初穂ヲ獻納シ神饌ニ具御スルノ榮ヲ賜タルハ即我カ國ノ
本タル農事ヲ貴ハルヽ所以ニシテ益
皇恩ノ深厚ナルヲ感佩スルニ至ラン然レトモ神饌ニ供セラ
ルヽ資ハ精米三斗精粟五升ナリトス依之一府一縣ヨリ
多量ヲ納ムルコトヲ得ス故ニ本府ヨリ精米壹升精粟五
合ヲ限リ獻納ノ定量トス依テ有志者協議ノ上耕作肥料
其他專ラ清淨ヲ旨トシ其収獲スル所ノ新穀ヲ以テ十月
二十八日迄ニ獻納人住所氏名書ヲ添ヘ郡役所ヲ經テ
當廳ニ指出スヘシ右ハ獻納有志者ニ懇篤示諭シ其手
續等ノ大要ヲ協議シ置キ豫メ當廳ニ具申セラルヘシ

明治廿五年五月

知事